

ともに 夢拓く

多くの方々の応援、感謝申し上げます。

まさに五月晴れとなつた五月十七日、第七十八回菊陽中学校体育大会を盛大に実施しました。御吉本町長をはじめ、御来賓の方々、多くの保護者の皆様に来校いただき、大盛況の中に開催することができたことに感謝申し上げます。

生徒たちの頑張りはいかがでしたでしょうか。今年度はほとんどお天気の

校長室だより

No.02

校長 高橋 啓

「日常に息づくゴールドプライド」



～体育大会振り返って～

青空に響き渡った歓声と、大地を揺らした土煙が嘘のように引き、静まり返ったグラウンドを今、私は見つめています。

体育大会を控えた結団式のあの日、私は生徒の皆さんに一つの「問い」を投げかけました。今年の体育大会テーマである「誇り」、そしてスロガンに掲げた「ゴールドプライド」の五色「一心」。絵の具の五色をどのように混ぜ合わせても、決して美しいゴールドにはなりません。混ざり合えば合うほど、色は濁り、限りなく黒に近い色へと変わっていきます。「一体、どうやってその黒をゴールドに変えていくのか。それをこの体育大会で考えてほしい。あの時、真剣な眼差しで私の言葉を受け止めてくれた生徒の皆さんの表情が、今も鮮明に焼き付いています。本番の体育大会に至るまでの練習の日々は、まさにその「黒」が生み出される時間だったのかも知れません。五つの団、それ



心配をすることなく、事前練習から順調に取り組むことができてきました。その中で運動の得意な生徒もそうでない生徒も、それぞれの持ち場で奮闘し、各団や学年学級の絆がより一段と高まって本番を迎えることができていたように感じます。

また、今後も菊陽中学校の教育活動にご理解とご協力いただき、改めましてお願い申し上げます。

それぞれの個性がぶつかり合い、時には思いついたことではない焦りや、意見の衝突があつたことではないでしょうか。照りつける太陽の下で流した汗、思うような結果が出ない悔しさ、焦りと疲れから生じた小さな衝突や言い合い。それらは決して綺麗なものはかりではななく、混ざり合うほどに混沌とした重く苦しい「黒」の時間を皆さんに突きつけたはずでした。しかし、これこそ皆さんに経験してほしいかった、本日の試練でした。

そして迎えた本番、私はグラウンドの至る所でその「黒」が目も眩むような「ゴールド」へと昇華していく奇跡の瞬間を何度も目撃しました。私は、講評で皆さんに「一生懸命は、最高にかっこいい」と伝えました。まさにその言葉通り、生徒の皆さんの姿は眩しいほどにかっこよかった。では皆さんは一体どうやって、あの濁った黒を、気高き「ゴールド」プライドへと変えてみせたのでしょうか。

その答えは、皆さん一人ひとり「本気」の中にあると、大会中、あるいは大会が終わったあと、激しい「悔しさ」を胸に抱いた人がたくさんいたはずだ。

菊陽中学校
学校通信
令和8年5月28日
第2号
発行責任者
高橋 啓
松浦 直生



学校 HP 随時掲載更新中！

QRコード読み取るとホームページにジャンプします。

通信に掲載できなかった体育大会の様子や取組等も掲載しています。また、これからの様々な行事や学校生活の様子、今後の予定や時間割、各種通信も掲載していきます。お時間あるときにぜひご覧ください。

しかし、どうか知ってください。あなたが、そしてなにかが「悔しい」と思えたこと、それ自身が、何よりもあなたやなにかが「本気」でこの大会に向き合ってきた揺るぎない証拠なのです。本気でなければ、悔し涙など流せません。たとえ勝負に負けたくなくても、たとえ練習通りにうまくいかなかったとしても、それでも前を向いて最後まで頑張り抜くことができたら、その歩みの中にこそ、皆さん自身の心に本物の「ゴールドプライド」が生まれた瞬間だったのです。最後まで絶対にあきらめない心の中に、互いを信じ抜いた協力と団結の中に、それは確かにありました。

そして何より私の心を震わせたのは、人が見ているところ、見ていないところに限らず、あらゆる場面で発揮されていた皆さんの「フオロワーシップ」です。それは、スポットライトが当たると競技中だけではありませぬ本気でひとり一人が応援してしま

さらに、すべてのプログラムが終わり、誰もが疲れ果てていた、「後片付けの時間」。重い道具を黙々と運ぶ姿、使った大縄などを黙々と巻いている姿、グラウンドに落ちた小さなゴミを拾い集める姿、誰に言われるでもなく、なかまや学校のために動いていたあの静かな時間の中にこそ、本物の輝きがありました。

さらに言えば、大会が明けたこれからの学校生活、日々の教室、目立たない掃除の時間、誰も気づかないような日常の片隅で、コツコツと誠実に頑張り続けているあなたの一歩一歩にこそ、この精神（ゴールドプライド）は息づいています。リーダーを支え、仲間を鼓舞し、目立たない場所でも誰一人として手を抜かず、お互

いを輝かせようと尽くしたその無数の優しさと行動こそが、濁った色を黄金へと変える最大のエネルギーだったのです。濁り、黒くなっていくはずだった五つの色は、お互いを拒絶することなく、深く混ざり合い、美しく重なり合いました。そして、ただ一つの大きな「心」へと溶け合ってしまったのです。五色が「一心」となったとき、菊陽中学校のグラウンドは、見たこともない美しいゴールドの輝きに包まれたのです。

大会が終わる、皆さんの手元に残ったものは何でしょうか。それは、優勝旗や賞状の輝きを遥かに超える、自分自身、そしてなにかが菊陽中学校への「確かな誇り（ゴールドプライド）」です。ぶつかり合いの「黒」や、負けた悔しさの「黒」を恐れず、それを最高の輝きへと変える術を、皆さんはこの体育大会で完全に学び取りました。体育服の汚れは洗濯すれば落ちますが、皆さんの心に刻まれたこの黄金（ゴールド）の誇りこそ、一つになりました。だからこそ私は今、この大会をやり遂げ、今もなお目立たない場所でも頑張り続けている生徒の皆さん一人ひとりに、大きな拍手とともに、心からの「ゴールドプライド」という名のゴールドメダルを贈りたいと思います。胸を張ってください。皆さんの輝きは本物でした。

この素晴らしき学びと胸に輝くメダルを抱いて、一つに重なり合った五色（ゴールド）の光を放ちながら、さらに輝かしい未来へと一歩を踏み出していきます。

「感動を、本当にありがとうございます」。

